

Momoyama Volunteer Express MOVE

March 26, 2018
Vol.
38



ボランティアって、誰のため？ 誰のため？



募金活動、ゴミ拾い、真面目、福祉一。ボランティアのイメージを聞いて、桃大生からよく聞くワードです。世間でもそのイメージが強いです。このイメージだと、ボランティアに対して、堅苦しさや難しさを感じる人、なかには暗い、辛いと感じる人がいるのも納得です。ただ、イメージ先行でボランティアを食わず嫌いしてしまうのは、もったいないと感じています。

「高校でボランティア活動をしたことがあります。」と新入生の皆さんから聞くことも多いです。しかし、よくよく聞いてみると、学校周辺の清掃活動をクラブでしたことがあるとか、先生に言われて募金活動をしたことがあるというのがほとんど。これって、自分から参加しようと思ったものではなくて、どちらかといえば半強制的に参加したものでしょう？ 半強制的だから、あまり面白くない。だから、ボランティアに拒否反応を示す人が多いと感じています。

桃大には、楽しみながらボランティアをしている先輩がたくさんいます。「なんとなくボランティアをスタートしてもいいの？」と聞かれることも多いですが、始めるキッカケは何でも構いません。興味を持ったものにチャレンジしてみる気持ちが大切です。

ボランティアを始めるのは「なんとなく」でもいいですが、いざ活動を始めたら自分が成長するぞ！という気持ちを持ち続けることが大切です。その気持ち

がないと、「なんとなくスタートして、なんとなく参加して、いつの間にか活動が終わった…」となりがちです。大学のどんな活動でも、自分の力を伸ばすことを頭の片隅に置きながら取り組むことを、是非心がけてください。

なかにはボランティア活動に参加しても、自分には合わないと思う人もいます。その場合は違う活動にシフトチェンジしてもOK。なぜなら、大学では本当に色々なことにチャレンジすることができるから。とにかくまず1回、皆さんにボランティア活動に触れてもらえると嬉しいです。

自分の成長に役立ち、楽しくやりがいのある活動。ボランティアがそう思ったら、色々体験してみましょう。余裕ができたなら、他の活動を始めてみるのも良いかも。そうやって、自分の世界をぐんと広げた桃大の先輩がたくさんいます。まず、自分の中にある、真面目で堅苦しくて、どこか暗いと思われがちなボランティアのイメージを変えてみませんか？

次のページでは、大学のボランティア活動支援室と一緒に活動しているボランティアスタッフについて、ご紹介します。桃大に入学した頃はボランティアの経験がなかった2回生のインタビューも掲載しています。是非読んでみてください。

ボランティアのイメージを変えたくて、 僕たちがしていること。



加茂 宏和さん
(経済学部2年生)

ボランティアスタッフは、ボランティア活動支援室と一緒に、大阪府和泉市近隣を中心にボランティア活動をしています。人数は、2~4年生で60人。桃大では「ボラスタ」と呼ばれることが多いです。ボランティア未経験からスタートして、勉強・アルバイトと両立しているメンバーがほとんど。なかには、部活や海外留学と両立しているメンバーもいます。今回は、去年桃大に入学した加茂くんにお話を聞いてみました。

みんなの笑顔が見れたらOK! まず1度ボランティアしてみませんか?

高校3年生のときに発生した『平成28年熊本地震』が、僕がボランティアを始めようと思ったキッカケです。地震発生当時は受験生。力になりたいけど何もできず、ただニュースを見ていただけ…。だから、大学に入ったら熊本でボランティア活動すると決めていて、昨年熊本地震のボランティアに参加することができました。関西で生活していると、熊本地震のニュースを見る機会はほとんどありませんよね？ だから、もう熊本は復興したと思っている人もきっと多いはず。熊本地震をメディアが取り上げていないだけで、復興にはまだまだ時間がかかります。今は、桃大生や周りの友人に熊本の現状を発信し続けることが、僕の役割だと思っています。

色々なボランティア活動をする中で僕が心がけていることは、みんなが自然と笑顔になるようなイベントにすること。それが達成できればOKと自分の中で決めています。イベントが終わった後の、皆さんからの「ありがとう」の言葉が、やりがいにつながります。ボランティアをしていてマイナスになることは、何ひとつありません！僕がボランティアデビューしたのも、桃大に入ってから。わからないことがあれば、先輩が優しく教えてください。新入生の皆さん、まず1回、ボランティアに参加してみてください。言葉で言い表しにくいですが、学べることも本当にたくさんありますよ！

僕はボランティア以外にも、1回生の秋学期から『よさこい連〜真輝〜』という部活に入り、色々なところで演舞を披露しています。また、今月は香港の海外短期留学にもチャレンジしました。これらの活動を始めたキッカケは、実はボランティアスタッフの仲間たちです。みんなの頑張りに触発され、さまざまな活動に



チャレンジすることができています。複数の活動を両立することは、難しいように思われがちです。ボランティアスタッフの仲間だけではなく、多くの桃大生が、自分が興味のある活動と勉強を両立させています。新入生の皆さんも大学生活の4年間で色々な活動に参加して、自分を成長させてほしいです。

下の写真は、僕たちボランティアスタッフの主な活動です。たくさんの笑顔を見ることが出来ますよ！ただ、これはあくまでも活動の一部で、他にも色々な活動をしています。活動に参加すればするほど、仲間との絆も深まります。皆さんが思っている以上に、ボランティア活動は楽しいですよ！

加茂くんは大学から始めたボランティアスタッフでの活動をキッカケに、色々なことにチャレンジしています。加茂くん以外にも多くの桃大生がひとつの活動だけでなく複数の活動を両立し、大学生活を充実させています。皆さんのやる気次第で、本当にどんなことにもチャレンジできる、それが大学です。ただ、はじめはひとつに絞って活動し、余裕が出たら他の活動をする方がいいかも。その候補のひとつに、ボランティアを選んでもらえるのが嬉しいです。

ボランティアスタッフの主な活動



ももやまキッズランド



さかいまつりのパレード



桃山祭



大阪マラソン



OTODAMA'フェス



日帰りキャンプ



桃山フェスタ



ゴミ拾い



日帰りキャンプ



クリスマス会



このイベントの詳細は、ボランティアスタッフのツイッターに情報が載っています。是非見てくださいね。

@volunteerandrew 「桃山学院大学ボランティアスタッフ」

困ったことがあれば相談できる環境が、桃大にある。

ボランティア活動支援室は、実は『障がい』とも関係が深い部屋です。「障がいのある方と関わるボランティアを募集しているんでしょ？」皆さんがそう思うのも当然。もちろん、障がいのある方と関わるボランティアも用意しています。これを読んだきっかけに覚えてほしいのが、実はボランティア活動支援室が身体に障がいのある桃大生の窓口にもなっていることです。



相談内容は人それぞれ。
気軽に足を運んでください。

- 窓口時間…平日9時10分～16時40分まで開いています。
- 学内設備…障がいがあるため、使いにくい設備があると感じたら教えてください。
- 授業・試験…障がいがあるため、授業や試験で困ったことがあれば教えてください。

「こんなこと聞いていいのかな？」と思わず、不安なことがあれば早めに相談し、解決していくことがオススメです。

サポートがスタートするのは、
皆さんからの声があってから。

身体に障がいのある皆さんから「サポートしてほしい!」という声があれば、皆さんがどのようなことで困っているかわからず、サポートができません。ただ、障がいがあってもサポートは必要ないという桃大生も多くいます。学生生活を過ごしていて、障がいがある理由で少しでも困ったことや心配なことがある場合は、聖ヨハネ館2階(地上階)のボランティア活動支援室まで、お気軽にお越しください。

キャンパス・ソーシャルワーカーがいる。
それが安心につながる。

「桃大生が誰でも相談できる窓口はないの?」と聞かれることも多いです。ボランティア活動支援室には、日常生活のこと、大学生活のこと、家族のことなど、皆さんが不安に思っていること、悩んでいることを相談できる、キャンパス・ソーシャルワーカーがいます。皆さんからの相談が周りに知られることはありませんので、安心してご利用ください。相談は予約が優先となりますので、ご注意ください。

皆さんの言葉が、仲間の大きな力になる。

大学の講義で大きく変わるの、クラス単位で講義を受けないところ。10分間の休憩で、毎回教室を移動しなければなりません。もちろん階数や建物も変わります。なかには5分近く、移動に時間がかかることも…。車椅子を利用している仲間、目が見えにくい仲間の移動が大変なことは、想像が付きやすいかと思います。

「エレベーターを待っているけど、講義に間に合うのかな…」、「机の上の資料、片付けるのに時間がかかっているな…」、「車椅子での移動、道幅が狭くて難しそうだな…。」そう感じたら、この言葉をかけてあげてください。

「何か困っていること、ありませんか?」

この一言だけでOKです。特別な知識がなくても、皆さんのサポートしたい気持ちがあれば、身体に障がいのある仲間の力になることができます。恥ずかしがらず、積極的に声をかけることのできる、桃大生になってください。



想像してみてください。 音のない中で、講義を受けることの難しさ。

桃大では聴覚に障がいのある仲間も、皆さんと同じように講義を受けています。聴覚に障がいのある仲間の多くは、高校では教科書や参考書を見ながら、自力で勉強してきた人がほとんど。高校の講義は先生の話し言葉がわからなくても、大学に入学することができました。ただ、大学では専門用語が多くなり、高校のように教科書を読んでいるだけでは理解できないことも増えます。黒板やホワイトボードにキーワードだけを書く先生もいます。講義では、先生の話し言葉が1番重要になります。

そのため、聴覚に障がいのある仲間の『耳』の代わりとなって、先生の話している言葉を伝える、『ノートテイク・パソコンテイク』が不可欠です。この役割を担っているのが、実は桃大生の皆さんです。今回、このノートテイク・パソコンテイクをご紹介します。



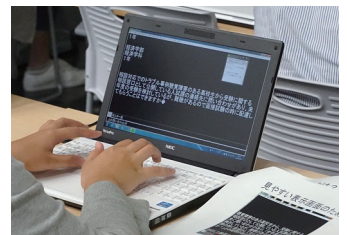
ノートテイク

「黒板の文字を書くんじゃよ？」と聞かれることもあります。講義中の先生の言葉や、グループワーク中の桃大生の言葉を短くまとめ、要約しながら文字で伝えていくのがノートテイクです。1人で活動すると思われがちですが、2人1組で活動するので安心してください。ノートテイクに向いているのは、外国語やグループワークのように発言する人が多い講義です。



パソコンテイク

ノートテイク同様、講義内の音の情報を2人1組で伝えていきます。ノートテイクとの大きな違いは、情報量の差。パソコンのタイピングに自信がある人、パソコンを触るのが好きな人、情報系の高校を卒業した人が多いです。パソコンテイクに向いているのは、先生の話し言葉が中心となる講義や、話すスピードが速い先生の講義です。



VOICE ノートテイクの声

先生の話していることを短くまとめること。初めは難しく当たり前のいきなり完璧にできる人なんていません。ただ、それに慣れてくると絶対がやってきます。90分間講義を聞き続けるので、集中力がアップすることは間違いありません。また、自分が受けている講義でも、ノートテイクの手法を実践。講義の要点をつかみながら話を聞く



ことができるようになり、成績アップにもつながりました。聴覚に障がいのある仲間とも仲良くなることができ、手話を覚えるキッカケにもなりました。

VOICE パソコンテイクの声

ノートテイクと同じように講義の要点をつかめるようになることはもちろん、プラスアルファでタイピング力が身につきます。はじめはタイピングが苦手だった私。パソコンに触れる機会も高校時代はほとんどありませんでした。タイピングが苦手だという人が多いと思いますが、練習を重ねるごとにタイピング力は絶対アップします。なかには、パソコン



テイクを就職活動の自己PRに繋げている先輩も。私も今年4回生になるので、テイクで身につけた要約力、タイピング力、障がいへの理解を身につけたことを、アピールする予定です。

テイクの活動をしてくれる方 **大募集!**

ノートテイク・パソコンテイクで、聴覚に障がいのある仲間をサポートして下さる方を募集しています。大学では高校のようにずっと授業が続くのではなく、空き時間ができます。この時間を使い仲間の力になりながら、自分自身の授業を聞くコツをつかめ、いずれ就職活動のアピールにもなる。それだけでなく、この活動は1つの講義を担当すれば1,380円をお支払いしています。活動を始めるには、講習会への参加が必須です。講習会の日程は、ポータルサイト『M-Port』で皆さんにお知らせします。

ボランティア活動支援室の場所について

珈琲館や国際センターのある建物、聖ヨハネ館の2階(地上階)にあります。ボランティアスタッフやノートテイク・パソコンテイクをしている人、障がいのある仲間がよく利用しています。新入生の皆さんが来てくださるのを、楽しみに待っていますね!

